

## 事例2

広島  
クラスター

# 課題発見・解決学習と 異文化間協働を 2018年度より全県下で推進

日本は、高校教育、大学教育、そして大学入試の改革が進んでいる。知識偏重から思考力、判断力、表現力等を重視した入試へとそのあり方が大きく変わる中で、広島県は2014年、子どもたちの主体的な学びの充実に向け、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を打ち出した。そのリーディングプロジェクトとなるのが、広島クラスターとしての活動だ。

## OECD日本イノベーション教育ネットワーク 広島クラスター プロフィール

広島クラスターでは、グローバル化への対応をメインテーマとして、『『違い』に気付き、尊重し、それを力に変えて、異なる他者と協働しながら、『違い』を乗り越えられる力』の育成を目指す。事務局は県教育委員会で、広島県内から公募、選考した高校生約80人が参加する。生徒は、広島と世界を元気にすることを目的としたプロジェクト学習を通じて、世界の高校生とも協働。海外のパートナーは、ハワイ、アジア地域の高校となる予定だ。

## 2018年から全県的に コンピテンシーの育成を展開

2014年に広島県が策定した「広島版『学びの変革』アクション・プラン」。これは、県内高校生の学力伸長を、「学習量の増加」ではなく、「学習の質」を変えることで実現しながら、さらには、正解が一つではない課題を抱える時代を生きるために、高校時代から「答えがない課題」に取り組む経験を積ませようというものだ。

「アクション・プラン」が描くのは、これまで日本で行われてきた「教師基点の学び」とは異なる、「生徒基点の学び」だ。広島県教育委員会学びの変革推進課の寺田拓真課長は、「『アクション・プラン』では、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力（コンピテンシー）の育成をめざした生徒の主体的な学びを、2018年から全県的に展開していくと明確に打ち出している」と説明する。

「10年先を見据えて、これまでの『知識ベースの学び』に加え、『コンピテンシーの育成を目指した主体的な学び』を促す教育活動を積極的に推進していこうというものです。主体的な学びは、単にグループ学習や体験学習を指しているわけではありません。あくまで、学習者が基点となる能動的な深い学びのことです」（寺田課長）

広島県における主体的な学びの柱は「異文化間協働活動」と「課題発見・解決学習」の二つだ。例えば、高校の場合、「異文化間協働活動」では、海外姉妹校とICTを活用したWeb会議を行ったり、目的やレベルに応じた短期～長期の留学プログラムに参加したりと、外国語を使って多様な人々と



広島県教育委員会事務局  
教育部  
学びの変革推進課課長  
寺田拓真  
てらだ・たくま



広島県教育委員会事務局  
教育部  
高校教育指導課課長  
吉村 薫  
よしむら・かおる

協働することをねらいとしている。すでに、すべての県立高校は海外姉妹校との間で生徒の受け入れや派遣を行っており、2012年度に約80人だった県立高校生徒の海外留学は、2015年度には300人以上に増加した。また、「課題発見・解決学習」では、各教科で習得した知識やスキルを活用して、企業・大学・自治体・地域住民など多様な人々と協働し、社会課題の発見と解決策発表・実行までの主体的な学習活動を通して、生徒のコンピテンシーを育成する。

広島県の「学びの変革」は、異文化間協働活動と課題発見・解決学習という二つの軸を定め、着々と進んでいるが、変革をさらに加速させるリーディング・プロジェクトとして位置づけられているのが、「OECD日本イノベーション教育ネットワーク」（Japan Innovative Schools Network

## 図 「学びの変革」パイロット校の取組状況【高等学校】

### ■ 探究コアスクール（「総合的な学習の時間」を核としたカリキュラム開発等）各校の研究計画（抜粋）

学校	育成すべき資質・能力等	研究内容（研究の特色等）
A校	<ul style="list-style-type: none"> <li>21世紀能力の中核となる思考力</li> <li>グローバル社会に参画しようとする意欲とコミュニケーション能力</li> <li>正解のない問いに諦めずに取り組み、複眼的に探究する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間と教科学習との横断的・相互連動的な連携</li> <li>実践力と基礎力・思考力との関係の明確化</li> <li>定期考査の「思考力問題」と授業内容との関連を分析・改善</li> </ul>
B校	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・自律的に物事に取り組む態度と実行力・行動力</li> <li>課題を発見し、正解のない問いに向き合い、課題を解決しようとする力</li> <li>批判的・論理的思考力、表現力等のコミュニケーション能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究的な学びのための知的技法入門テキストの作成</li> <li>協働的な学びにおける評価方法の研究開発</li> </ul>
C校	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びと学び方の統合を図り、自分の考え・意見を整理して、積極的に自己を表現する資質・能力</li> <li>自らの「学びの仕組み」を理解し、自らの「学び方」を検証し高めるとともに、自己評価の在り方を省察（振り返り）する資質・能力</li> <li>グローバル化が進化する現代社会に関して、横断的・総合的な学習活動を通して、自ら課題を見付け、他者と協働して探究する資質・能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの教育活動に適用する本質的な問いと課題発見・解決の力の関連付け及び体系化</li> <li>生徒自身が「ICE ルーブリック」（カナダで実践される主体的な学びの評価と学習方法）を活用する能力を身に付けるための計画的・段階的な学びの実践研究</li> <li>相互授業観察・授業の映像化</li> </ul>

### ■ 活用コアスクール（各教科を核としたカリキュラム開発等）各校の研究計画（抜粋）

学校	育成すべき資質・能力等	研究内容（研究の特色等）
D校	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識を身に付け自分の言葉で説明できる力、知識を汎用して解決のための選択肢を想定し、プロセスを組み立てて答えを生み出す「思考力」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識を活用し協働して新たな価値を創造する授業の実現</li> <li>「思考力」の定義づけと教育内容を明確化</li> <li>単元ごとの本質的な問いの模索</li> </ul>
E校	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだ知識を基に自ら課題に取り組む力、学習に意欲的に参加し、教科の学習を活用して自分の考えを発表する力、まとめや発表を振り返り改善できる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の積極的活用</li> <li>「反転授業」「協働学習」を連動させた授業づくり</li> <li>生徒による模擬授業の実施</li> </ul>
F校	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋道を立て、根拠を持って物事を考察し、それを的確に、自分の言葉で、他者に伝えることができる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に付けたい論理的思考力の明確化</li> <li>定期考査における評価問題の研究及び出題・分析</li> <li>パフォーマンス課題とルーブリックの作成</li> </ul>
G校	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題発見・設定能力、情報収集・整理・分析能力、課題解決への方法を考え工夫・活用する能力、コミュニケーション能力、意見をまとめ表現する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題発見・解決学習に関する授業研究</li> <li>別班学習の在り方</li> <li>評価（考査問題等）の在り方・妥当性</li> </ul>
H校	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な知識に基づいて自ら課題を発見し、主体的に課題解決に臨む姿勢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元に「活用の時間」、「省察の時間」を設定</li> <li>「負荷・活用・省察」の授業づくりの研究</li> <li>定期考査における「活用問題」の研究</li> <li>学習レビューシート、ポートフォリオの活用</li> </ul>

※広島県教育委員会提供資料を基に作成。

supported by OECD) の広島クラスターとしての活動、「広島創生イノベーションスクール」だ。

## 広島県の教育改革を牽引する 「広島創生イノベーションスクール」

「広島創生イノベーションスクール」では、県内の高校1・2年生が「広島」をテーマにプロジェクト学習に取り組む。2015年度は県内13の高校から約80人が参加。各校3～9人が1チームとなって活動するほか、近隣の3、4校で「エリアスクール」を形成、さらに、全参加校が集まる「全体スクール」と、学校の枠をこえて生徒が情報共有や議論をしながら活動を行った。

2015年度、生徒はフィールドワークやインタビューを行い、課題調査と課題解決の方向性を検討しながら、「広島」に向き合っていた。

「なぜ今、広島と向き合うのか、生徒が自分なりの答えを見つけられるよう、ディスカッションやダイアログの手法を用いた熟考の場をつくりました。そのうえで、エリアスクールでどんな課題研究に取り組むかは生徒たちに考

えてもらいました。活動から半年ほどが経過し、地域の人へのインタビュー、フィールドワークなどを通して地域を理解する中で、それまではぼんやりしている『地方創生』といった言葉が、『あの街の、あの人たちを元気にしたい』と明確なビジョンに変化していきました」（寺田課長）

16年度以降は、エリアスクールで発見した課題の解決策の実行に移っていくことになる。また並行して、生徒の視野をさらに広げるため、ハワイで広島の魅力などを紹介する「グローバルスクール」や、海外パートナースクールの生徒を招いて協働活動を行う「グローバルスクール」も行う予定だ。これらの活動を通して、地域と世界の共通点や相違点に気付き、OECDの「Education2030」でも議論されているようにコンフリクト（意見、利害の対立、不一致）を乗り越え、課題を解決する力の育成をめざしていく。

「私たちは、『広島創生イノベーションスクール』を、広島版『学びの変革』における課題発見・解決学習、異文化間協働活動のまさに結節点のようなものと位置付けています。当初は、生徒から『大人でも答えの出せないことを自分たちが考えられるわけがない』という声も聞かれまし

たが、活動が進むにつれて、生徒の姿勢は変化し、ある生徒は、『活動は、わくわくするけれども、同時に怖さも感じるようになった』と吐露しました。自分が広島の未来にかかわっていると自覚したからこそ、怖いという感情が芽生えたのです。別の生徒は、『先生に言われたことをやる方が楽だけど、自分で考えてやらなければいけないという気持ちになった』と語りました。学びは、楽しいだけでは遊びで終わってしまい、しんどいだけでは長続きしません。

図 2015年度中核教員研修実施計画(高等学校)

研修の概要 ● 「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した教育の推進のための中核となる教員を養成する」ことを目的として、第一期から第十期の日程で行う。前半ではこれからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した各教科及び総合的な学習の時間の在り方や単元計画・指導案等の改善について講義・協議等を行う。

期・実施日時	内容	備考
第一期 2015年4月23日(木) 9:30～16:45	◎講義 ・中核教員に期待すること ・広島版「学びの変革」アクション・プランについて ・総合的な学習の時間を通じたコンピテンシーの育成について ・育成すべき資質・能力の全体像などについて ◎分科会 ・指定校及び中核教員の使命・役割について	講義 協議
第二期 2015年4月24日(金) 9:30～16:45	◎講義 ・子どもが主体的に学ぶ教科及び総合的な学習の時間のカリキュラムについて ・総合的な学習の時間に求められる探究的な活動について ◎分科会 ・先進例を基に自校の計画の課題を明確にする。	講義 演習 協議
第三期 2015年5月8日(金) 9:30～16:45	◎講義等 ・各教科を通じたコンピテンシーの育成について ・パフォーマンス課題及びルーブリックの作成について	講義 演習 協議
第四期 2015年6月12日(金) 9:30～16:45	◎「総合的な学習の時間」専門研修講座の受講 ◎分科会 ・研修計画書及びシラバスの交流と協議	講義 演習 協議
第五期 2015年7月11日(土) 9:30～16:45	◎未来探究セミナー①	
第六期 2015年9月28日(月) 9:30～16:45	◎分科会 ・実践報告及び自校における取組状況の共有、今後の改善の方向性について	協議
第七期 2015年10月3日(土) 9:30～16:45	◎未来探究セミナー②	
第八期 2015年10月9日(金) 9:30～16:45	◎「カリキュラムマネジメント」専門研修講座の受講 ◎分科会 ・未来探求セミナーの振り返り及び計画について	講義 演習 協議
第九期 2015年12月13日(日) 9:30～16:45	◎未来探究セミナー③	
第十期 2016年1月8日(金) 9:30～16:45	◎発表等 ・今年度の取組について	発表 協議

「未来探究セミナー」は、広島版「学びの変革」アクション・プランに基づいた、高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクトの一つ。参加生徒は、仲間と協働して広島の新しい価値を生み出すため、現代及び未来の広島における課題を発見し、文学、法学、医学、工学、農学など8つの学問系統をアプローチの起点として、課題の解決を目指す合同プロジェクト学習を行う。大学教授の講義やグループ協議、ポスターセッションなど多彩な活動を通じて、これからの社会で活躍するために必要な課題発見・解決力、創造力、コミュニケーション能力等を身に付ける。

※広島県教育委員会提供資料を基に作成。

その両方が存在する『たのしんどい』時にこそ、生徒に主体的な姿勢が生まれるのだと思います」(寺田課長)

全県展開を見通した  
体験型の研修プログラム

「異文化間協働活動」と「課題発見・解決学習」を2018年度から広島県全体で展開するため、県教育委員会では、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力(コンピテンシー)の育成を目指した教育の実践に向けて、新たなカリキュラム開発とともに教員の育成方針の抜本的な見直しも進めている。

高校の場合、課題発見・解決学習を取り入れた主体的な学びの全県展開に向けて、県教育委員会はまず県内24校を「学びの変革」のパイロット校に指定した。「パイロット校は、課題発見・解決学習を取り入れた授業を促すモデルカリキュラムを研究・開発するとともに、『学びの変革』を推進する中核教員を養成して校内外への普及を進めることになる」と高校教育指導課の吉村薫課長は説明する。

「パイロット校は探究コアスクールと活用コアスクールの2つに分かれます。探究コアスクールは6校で、総合的な学習の時間を核としたカリキュラムの研究・開発を、活用コアスクールは18校で、各教科を核としてのカリキュラムの研究・開発を行います。またすべてのパイロット校には『主体的な学び』を推進するリーダーとなる中核教員を指定し、集中的に実践研修を実施しています。中核教員は、モデルカリキュラムを開発し、それらを実践・検証するとともに、発表会等でその成果を県内へ普及していきます」(吉村課長)

パイロット校における課題発見・解決学習を取り入れたモデルカリキュラムの研究・開発は、それぞれの高校の特性に応じて、自由に進めていくが、コンピテンシーの育成を目指した教育の考え方や指導・評価計画の立て方についての十分な理解が必要になることから、教育委員会が主催する中核教員研修を実施した。

「2015年度は中核教員研修を10回にわたって行いました。『コンピテンシーとは何か、なぜこれを育成することが必要なのか』『探究する学びとは何か』など、生徒主体の学習の土台となる部分について初期の研修で学び、続いて各学校が定める各教科や、総合的な学習の時間を通じたコンピテンシーの育成についての講義や演習、協議を



写真共に) 中核教員の研修機能も備えた高校1・2年生対象の「未来探究セミナー」。どのようにかかわれば生徒の主体的な学びを促進できるか、参加した教師は体験的に学んでいく。



重ねました」(吉村課長)

中核教員研修の特徴の一つは、生徒による課題発見・解決学習を取り入れたプログラムを行いながら、生徒と共に教師が学ぶ方法を採用していることだ。

「広島の未来を考える高校1・2年生の合同プロジェクト、『未来探究セミナー』を中核教員研修に組み込んだのです。このセミナーは『広島創生イノベーションスクール』のミニチュア版ともいえるかもしれません。約50校から1名ずつ参加した生徒は仲間と協働して広島の新しい価値を生み出すため、広島における課題を発見し、学問系統をアプローチの起点として、課題の解決をめざす合同プロジェクト学習を行いました。中核教員はこのセミナーを通して生徒の主体的な学びをどのようにファシリテートするかを体験的に学びました」(吉村課長)

2016年度、24のパイロット校は前年度の取組を踏まえてさらに研究・開発を進めている。2015年度に開発されたモデルカリキュラムはWebサイトで公開され、パイロット校はもちろん、広島県下全ての県立高校の「主体的な学びを促す授業づくり」のヒントとして活用される。

「2016年度は全ての高校に実践推進リーダーを配置し、パイロット校が進める研究・開発による成果等を自校の取組の参考とします。生徒の実態は学校によって異なりますので、パイロット校の気づきやねらいに自校の特色や長所を踏まえた創意工夫を加え、独自のカリキュラムを開発してもらうことがねらいです。そうして、2018年度から全ての学校で、自校の育てたい生徒像に合った形で、主体的な学びが展開されることが目標です」(吉村課長)

目の前の生徒の変化が  
教師の教育観を転換させる

「教師基点の学び」から「生徒基点の学び」へと転換す

るために、教師、そして学校が自校の生徒に合った学び方を主体的に考えていく研修を広島県では展開している。

「『広島創生イノベーションスクール』でも参加校の教師と活動を支援する社会人や大学生が集まって研修を行っています。講義スタイルではなく全員で対話を重ねながら全員がめざすものを確認し、今の自分に欠けているものを洗い出していくようなスタイルを採っています。これからの教育について教師が能動的に考えられる研修を実施し、その数か月後、ほぼ同じプログラムで今度は高校生がこれからの広島について考えることもあるのです」(寺田課長)

「広島版『学びの変革』アクション・プラン」の意義を理解し、日々の授業の変革に取り組む教師は着実に増えている。また、研修での体験を通して対話の重要性を確信し、これからの学びについて校内で議論する土壌も各校で次第にできつつある。「変わらなければ」という意識は、確かに県下に浸透していると寺田・吉村両氏は語る。

「これだけの知識を教え込まないと、生徒はここまでたどりつけないという、知識量ベースの教育観から脱却するのは簡単ではありません。しかし、生徒が主体的になれば、教師が全部を教えなくても、生徒は自分たちの力で答えにたどりつきます。このことを目の当たりにすることで、教師の授業観・教育観は大きく転換するのです」(吉村課長)

「『広島創生イノベーションスクール』でも『未来探究セミナー』でも、参加した先生方は最初は教えたくてうずうずしていたはず。しかし、これからの時代に求められるイノベーターの育成には、教師が生徒を引っ張ってよいものをつくるよりも、教師が生徒の主体性を尊重し、生徒に試行錯誤させる方が大切なはず」(寺田課長)

変化する生徒の姿をきっかけに、教師が「これからの学び」「これからの生徒へのかかわり」を考えたい場面を数多くつくることで、広島県は全県での学びの変革を実現しようとしている。